

■ イスラエルが待ち望んでいた人

旧約時代の最後の預言者が死んでから400年の間、神様はイスラエルに預言者を起こしませんでした。そして、この間、イスラエルはペルシア、ギリシア、ローマといった巨大な国々に支配されていました。そういう状況の中で、イスラエルの民は、旧約の預言者たちが預言した、メシアとエリヤを待ち望んでいました。

■ バプテスマのヨハネ

バプテスマのヨハネは、ヨルダン川で人々に悔い改めのバプテスマを施し、罪の赦しによる救いを宣べ伝えました。彼は、人々がメシア＝イエスを信じるように、イエス様の道を用意しました。多くの民がヨハネのところに来て、罪を告白し、バプテスマを受けました。イスラエルの民はヨハネのことを、『もしかするとこの方がキリスト（メシア）ではないか』と思いました。

■ メッセージのポイント

(1) バプテスマのヨハネの一つ目の証しは、自分を無いものとし、自分を低くすることでした。

ヨハネは、自分のところにやって来たユダヤ人の指導者たちに、自分がキリストでもなく、エリヤでもないと言いました。彼は自分のことを、「荒野で叫ぶ者の声」と言いました。

(2) 二つ目の証しは、自分が遣わされた本当の理由を洞察し、キリストを崇めることでした。

ユダヤ人の指導者たちは、ヨハネのバプテスマの権威について疑問を抱きました。ヨハネは、自分の水のバプテスマは、キリストがイスラエルに明らかにされるためだと答えました。

(3) 三つ目の証しは、神様から聞き、自ら見たキリストのことでした。

神様から聞いた通りに、御霊が鳩のように天から降って、イエス様の上にとどまりました。ヨハネは、神様から聞いたこと、また、自ら見たことを証しました。